

これは、
阪大人のおいしい歴史。

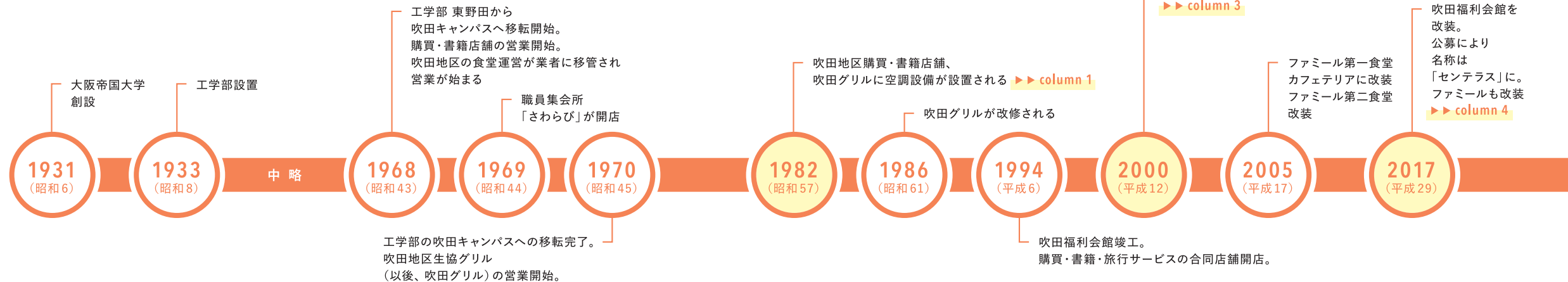
「腹が減っては…」という諺もあるように、良い仕事をするために「食」はとても重要。2017年7月時点で、大阪大学のキャンパスには29もの食に関する福利厚生施設（売店等を含む）があり、実に4,200席を超える食堂・カフェがおおよそ33,000人の阪大人の胃袋を支えている。

そこで、今回の阪大AtoZでは、私たちがいつも応援してくれている「福利厚生施設・食堂」に焦点を当て、その変遷を追ってみた。第一弾は、「センテラス」という名称で福利厚生施設がリニューアルした工学研究科エリア。当時を知る方々からは、今では食べられない大阪ならではの学食メニューなど思い出メシも。

さあ、阪大人のおいしい歴史をご賞味あれ。

(文責:広報課 監修:大阪大学生協)

※阪大AtoZとは、大阪大学のあらゆる物事を様々な角度から紹介する企画です。



column 1 大変!?でも、
どこか牧歌的な80年代

当時の窮状を記した報告書がある。そこには、生協食堂の1日あたりの回転率が記されているのだが、驚くべきことに、主に昼の営業だけで8.3回転という数字だったそう。混雑ぶりが伝わってくる。しかし、その窮状と反してレポートにはどこか牧歌的な時代の雰囲気漂っている。

〈報告書抜粋〉

(2) 現存施設の利用実態

豊中地区の生協食堂でも、ピーク時は長蛇の列と大変な混雑です。吹田地区生協グリルは、筆や口では表現できない程のひどい状態です。1つの席が次から次へと切れ目なく利用されているので、横に立って席が空くのを待っている仲間の顔を見ると、落ち着いて食べること

もできません。

この第Ⅰ団地では、広い大塚食堂より、狭い生協グリルの利用率が著しく高いことも、混雑をひどくする大きな要因となっています。

購買部では、豊中店の3倍以上の混雑度です。商品を前にして、あれこれ比較検討して買物ができる状態ではありません。

書籍部では、昼休みにちょっと立ち読みを
 と思っても、本を開けば隣りの人にぶつかり、
 ピーク時には目的のコーナーにたどりつくこと
 さえ一苦勞な有様です。

出展：大阪大学生生活協同組合理事代行会
「吹田地区第1団地における福利厚生施設の現状と改善の
ために」から抜粋（1981年）



column 2 「あ、鳥だ。鳥が飛んでる」

当時、工学研究科付近で過ごした何名かの方に話を聞くと微笑ましい思い出が返ってきた。

まず、工学部の吹田キャンパス移転前から2000年まであった大塚食堂は、スタジオジブリの作品に出てくるラピュタのような薄暗い建物だったという声も。「店内をハトが飛んでいた」とか、「から揚げが赤く厨房のおばちゃんに揚げ直しをお願いした」等返答に困るワイルドな思い出も。そんな大塚食堂が突然閉店した後、生協が運営するファミールができて様変わりしたという。

column 3-1 伝説のテンマ

ファミールでは、学生からの要望を反映した、挑戦的なメニューが提供されてきた。

その代表は「びっくり!天津麻婆丼」だろう。阪大名物「天津麻婆丼」(通称「テンマ」)の通常サイズの5倍程度の特大

column 3-3 大阪ならではの力技メニュー！

次に多かったのが「明石うどん」。豊中キャンパスでも1～2年前まで提供されていた大阪ならではの炭水化物in炭水化物の名物メニュー。その名の通り、うどんの上に明石焼が乗ったものなのだが、うどんの出汁が浸み込み、絶妙な味わいを生むのだそう。時間とともにとろけ、最後は掻揚げの天ぷらうどんのようになるのも美味しかったのだとか。

column 3-4 伝説は継承される?!
カラアゲ+梅ソース

当時の食堂の話でもう一つ、「アペティ」のから揚げ定食が絶品で、梅ソースの味が忘れられないという声も。現在その店舗は無く真偽のほどは不明だが、その伝説の定食は本部前の「ひだまり」に引き継がれているという。



ボリュームで、注文する人、注文される人、周りで見る人全員が「びっくり」したという伝説のメニュー。男子学生が多い工学部エリアならではのメニューだろう。



column 3-2 あの油そばをもう一度。

他にも伝説のメニューとして挙げたのは「油そば」。タレとラー油で味付けられ、チャーシューの上にネギがパラパラとかかったシンプルな料理で、ここに白ごはんをドボンッと浸して食べるのが美味しかったという。「少しジャンキーなあの油そばにもう一度会いたい」という声も。

大塚食堂が閉店し、ファミールの営業が開始 ▶▶ column 2
吹田グリルが「アペティ」にリニューアル
▶▶ column 3

- ファミリー第一食堂
カフェテリアに改装
ファミリー第二食堂
改装

吹田福利会館を
改装。
公募により
名称は
「センテラス」に。
ファミールも改装
▶▶ column 4

column 4 生まれ変わった
吹田福利会館「センテラス」

一階には、明るく活気ある第一ホールと落ち着いた雰囲気
の第二ホールからなる548席の巨大カフェテリア食堂「ファミ
ール」、そして天津麻婆丼が食べられる「和麺・丼ぶり」専門店の
「吹田DonDon」がある。新たに焼肉丼
などのテイクアウトコーナーも併設。

二階は、「来店された組合員が、1STOPでご要望を解決できる」をテーマに、生協が扱う食品以外のサービス（書籍・旅行サービス・公費受付カウンター・マイルーム（お部屋探し）・カフェ・総務部事務所）がワンフロアに集まった複合店になっている。他にもセンテラスの南エリアのショップでは、食品の他、文房具、製図用品、日用品、阪大オリジナルグッズが販売されている。

